

徳島県経済グローバル化対応基本方針（案）について

1 策定の背景・趣旨

TPP11などにより、貿易の自由化が急速に進展する中、「東京2020オリンピック・パラリンピック」をはじめ、2025年の「大阪・関西万国博覧会」やその先を見通し、本県産業の成長化を図っていくことが必要です。

このため、経済グローバル化に対峙し、「守り」を固めて、「攻め」へと転じ、東京オリ・パラ等のレガシー効果も創出しながら、経済効果を本県に確実に波及させていくための「方向性」や「考え方」を明らかにし、「徳島ならではの」強みを最大限に活かした「攻め」の施策を県を挙げて推進していこうとするものです。

2 基本的考え方

本県の「食」や「自然環境」など、「徳島ならではの」の「強み」を活かし、「施策の集中展開」や「人材・ネットワークづくり」など5つの視点を踏まえながら（3）の施策体系により、県を挙げて「攻め」のグローバル対策を推進します。

（1）世界に通用する徳島の「強み」

【食】

徳島を代表する果実「すだち」やGI登録された「木頭ゆず」、「なると金時」、「阿波尾鶏」、「鳴門わかめ」など、**「多種多様で安全・安心・高品質な農畜水産物」**

【自然環境】

日本三大河川の「吉野川」、世界最大規模の「鳴門の渦潮」、桃源郷「祖谷溪」など、**「全国的な知名度を有する多くの自然・観光資源」**

【伝統・文化・産業】

400有余年の伝統芸能「阿波おどり」、ジャパンプルー「阿波藍」、「四国八十八箇所霊場と遍路道」など、**「受け継がれてきた伝統や技術」**

【国際ネットワーク】

「東京オリ・パラホストタウン」ドイツ、カンボジア、「ラグビーWCキャンプ」ジョージア、新ターミナルが完成「徳島阿波おどり空港」、クルーズ船が寄港する「徳島小松島港」など、**「世界各国との交流」**

（2）5つの視点

①「東京オリ・パラ」や「大阪・関西万博」等を見据えた施策の集中展開

TurnTableからの「情報発信」や「輸出促進対策」、「インバウンド誘客」など、グローバル化の経済効果を本県に確実に波及させるための**「施策を集中展開」**

②グローバル化に柔軟に対応できる人材・ネットワークづくり

経営感覚に優れた「担い手」や、外国人旅行者や労働者の「コーディネーター」、本県の食や文化を世界に売り込む「推進母体」など、**「人材やネットワークづくり」**

③次世代テクノロジーの活用

IoT、AI等のがもたらす第4次産業革命による「匠の技の伝承や省力化」や光ブロードバンド環境を活かした「情報通信産業の集積」など、**「最先端技術を活用した競争力強化」**

④世界から選ばれとくしまづくり

外国人から「旅行先」や「働く場」として選ばれる「とくしま」づくり、地域に「異文化」や「多様性」を受け入れる体制構築など、**「多文化共生社会の実現」**

⑤食の安全安心

徳島の食を世界へ広げるカギとなる「GAP」、「GI」等の取得推進や、「エシカル消費」に関する教育の推進など、**「食の安全・安心」対策の展開**

(3) 基本方針の体系

